

川音 障害者虐待防止セルフチェックリスト(職員)

平成31年2月実施

【目的】 障害者虐待防止セルフチェックリスト(職員)をとおして、虐待防止の観点から自己を見つめなおし、行動規範に基づいた支援を行うことを目的とします。

<p>【チェック内容一覧表】 川音全職員27名中、全項目4と3にセルフチェックした方が20名。2にセルフチェックして、A、Bに記載してくれた方が7名でした。</p> <p>【セルフチェック結果】 ・支援者間の相互点検 ・利用者的人格無視 ・利用者に対する先入観や憶測 ・利用者への行動制限 ・利用者の自立を支援者が阻害 ・利用者の個性・特性把握と可能性を引き出す支援 ・意思決定支援 ・支援者自身の振り返り</p>

【セルフチェック基準】 4: できている 3: ほぼできている 2: ややできていない 1: できていない

チェック項目:(1)～(6) 厳守事項、(7) 責務・努力事項	セルフチェック		A (現時点で対応が困難な理由)	B (解決・改善に向けてできること)
<p>(1) 利用者への虐待 ①利用者に対し、拒絶的な対応、精神的に傷つけ、不安にさせる言動はしません。 ②他の支援者の不適切な言動を見過ごしたり、容認しません。</p>	2人	2 1 ② 1	②職員間で利用者呼び捨て、ちゃん、くんで会話あったが指摘できなかった。 ②不適切な言動を見過ごしてしまう。どう伝えたら良いか分からない。	当事者がいなくても、さん付けで呼ぶよう統一していく。
<p>(2) 利用者への差別 ①年齢にふさわしくない接し方はしません。 ②障害が故の特性や克服困難なことを、本人の責めに帰すような発言はしません。 ③日頃の行動から、その利用者に対して先入観や憶測で判断しません。</p>	1人 2人	② 1 2 1 ② 1	①年齢の幅が広く、中高等部の方に幼く声をかけてしまう時があった。 ③時々、憶測めいた発言があった。	意識を高める。 言葉に出さず、胸の内に納める。
<p>(3) 利用者に対するプライバシーの侵害 ①利用者の個人情報、利用者や家族の同意なく他にもりません。 ②利用者本人の同意を得ずに、ロッカーを開けたり、中の所持品を扱ったりしません。 ③利用者の衣服の着脱やトイレ使用の際、他人から見えないようにします。 ④利用者の生理の話、人前でしません。 ⑤利用者本人や家族等の了解を得ずに、本人の写真、名前や制作した作品を掲載、展示しません。</p>		2 1 2 1 2 1 2 1 2 1		
<p>(4) 利用者的人格無視 ①呼び捨てやあだ名、あるいは「ちゃん」、「くん」で呼ぶことはしません。 ②利用者に対して命令調で話したり、大声で叱責したりしません。 ③利用者の訴えに対して、無視や拒否するような行為をしません。 ④利用者のできることを支援者が行ってしまうなど、自立を妨げることはしません。 ⑤支援者側の価値観や都合での一方的・画一的な支援をしません。</p>	3人 1人	② 1 2 1 2 1 ② 1 2 1	①さん付けを意識しているが、ふと「ちゃん、くん」で声をかけてしまう時がある。 ④チェックあるも、記述なし。	どのような場合でも、日常会話の中でも、意識してさん付けで呼ぶ習慣を身につけていく。
<p>(5)・(6) 利用者への強要・制限 ①本人の生命や健康を守るためにどうしても必要な場合を除き、利用者の嫌がることを強要しません。 ②作業等諸活動に対し、ノルマを課しません。 ③緊急時を除き、利用者の行動を抑制したり、制限する言葉かけをしません。</p>	1人	2 1 2 1 ② 1	③親の迎えの時に利用者が玄関に出てしまう。危険回避目的に、しるしを付けたが、行動の抑制だったかもしれない。	玄関や外に出てしまった時に起こる危険を利用者と一緒を考える。
<p>(7) 職員の専門的支援・自己研鑽 ①利用者一人ひとりの個性と特性の把握に努め、可能性を伸ばし、自立を支援します。 ②利用者の意思決定のための機会を設定し、自立と自己表現を支援します。 ③聴覚・視覚障害のある利用者に合わせて適切なコミュニケーション手段を工夫します。 ④支援者は、常に自分の言動を振り返り、支援者相互においても支援のあり方を点検し、日々の支援に生かします。</p>	1人 1人 3人	② 1 2 1 ② 1 ② 1	①利用者の特性、意思決定を拾い切れていない。性格の把握がよく分からず戸惑う。 ③コミュニケーションの仕方を工夫していない。 ④振り返りが甘く支援に生かせていない。振り返りの機会が殆どなかった。	意思決定の意味をもっと考える。 相手の気持ちを理解できる方法がないか考えてみる。 お互いの意見をもっと出し合っていく。